

お知らせ

記者発表資料 | 平成28年3月31日

■同時発表先：合同庁舎記者クラブ、鳥取県政記者会、島根県政記者会、岡山県政記者クラブ
広島県政記者クラブ、山口県政記者会、山口県政記者クラブ、山口県政滝町記者クラブ
中国地方建設記者クラブ

平成27年度 中国地方整備局入札監視委員会 第一部会第4回定例会議の議事概要について

中国地方整備局入札監視委員は第一部会第4回定例会議を平成28年3月14日（月）に開催しました。

会議では平成27年10月1日から平成27年12月31日までの間に発注した「工事」「建設コンサルタント業務等」「役務の提供等及び物品の製造等」の中から抽出した10件の事案について、入札・契約の過程並びに契約内容について審議がなされました。議事概要については別紙のとおりです。

<問い合わせ先>

中国地方整備局入札監視委員会事務局

（第一部会）082-221-9231（代表）

主任監査官	あかぎ まもる 赤木 護	（内線2114）
総務部 契約管理官	きのした かずたか 木野下 和孝	（内線2222）
企画部 技術開発調整官	なかがわ てつし 中川 哲志	（内線3120）

【広報担当窓口】

広報広聴対策官	ひらかわ まさふみ 平川 雅文	（内線2117）
企画部 環境調整官	た お かずなり 田尾 和也	（内線3114）

中国地方整備局入札監視委員会（第一部会）審議概要

開催日時及び場所	平成２８年３月１４日（月）　１４時００分～１７時００分 中国地方整備局　建政部　３階会議室		
委員	部会長　　竹下　祐二　（大学院教授） 委　員　　河合　研至　（大学院教授） 委　員　　平野　　実　（大学教授） 委　員　　福田　和恵　（公認会計士・税理士） 委　員　　水中　誠三　（弁護士）		
審議対象期間	平成２７年１０月１日　～　平成２７年１２月３１日		
抽出案件	総件数　１０件	（備考） 審議対象工事等の案件については、 別紙１のとおり	
○工事			
一般競争入札方式 （WTO 対象）	１件		
一般競争入札方式 （WTO 対象外）	５件		
○建設コンサルタント業務等			
簡易公募型競争入札方式	１件		
指名競争入札方式	１件		
簡易公募型プロポーザル方式	１件		
○役務の提供等及び物品の製造等			
一般競争入札方式	１件		
委員からの意見・質問、 それに対する回答	意見・質問	説明・回答	
	別紙２のとおり	別紙２のとおり	
委員会による意見の具申 又は勧告の内容	なし		

抽出事案一覧表

【工事】

(一般競争入札方式:政府調達に関する協定適用対象工事)

工事名	工事種別	競争参加資格を 確認した者の数	入札参加者数	契約締結日	契約の相手方
木原道路赤石トンネル工事	一般土木工事	32	31	平成27年11月25日	(株)鴻池組

(一般競争入札方式:政府調達に関する協定適用対象工事以外のもの)

工事名	工事種別	競争参加資格を 確認した者の数	入札参加者数	契約締結日	契約の相手方
湖陵多伎道路三部地区改良工事	一般土木工事	6	6	平成27年12月9日	今岡工業(株)
鳥取西道路高住高架橋第2鋼上部工事	鋼橋上部工事	17	16	平成27年11月17日	(株)駒井ハルテック
国道9号相生第1トンネル外照明設備工事	電気設備工事	6	6	平成27年10月28日	山陰電工(株)
小月バイパス松屋ランプ橋上部工事	プレストレスト・コンクリート工事	3	3	平成27年12月10日	(株)富士ビー・エス
法勝寺川境第2樋門ゲート設備工事	機械設備工事	1	1	平成27年10月20日	東洋プラント(株)

【建設コンサルタント業務等】

(簡易公募型競争入札方式)

業務名	業種区分	手続への参加資格及び 業務実施上の条件を満たす 参加表明書の提出 者数	入札参加者数	契約締結日	契約の相手方
苫田ダム修繕設計外業務	土木関係建設コンサルタント業務	2	2	平成27年12月7日	(株)荒谷建設コンサルタント

(通常指名競争入札方式)

業務名	業種区分	手続への参加資格及び 業務実施上の条件を満たす 参加表明書の提出 者数	入札参加者数	契約締結日	契約の相手方
米子地区地質調査業務	地質調査業務	10	10	平成27年12月22日	鵬技術コンサルタント(株)

(簡易公募型プロポーザル方式)

業務名	業種区分	手続への参加資格及び 業務実施上の条件を満たす 参加表明書の提出 者数	入札参加者数	契約締結日	契約の相手方
中国管内道路構造物診断業務	土木関係建設コンサルタント業務	2	2	平成27年10月1日	いであ(株)

【役務の提供等及び物品の製造等】

(一般競争入札方式)

業務名	業務分類	競争参加資格を 確認した者の数	入札者数	契約締結日	契約の相手方
中国管内デジタル移動通信装置製造	販売[電気・通信用機器類]	3	2	平成27年11月6日	日本電気株式会社

意見・質問	説明、回答
1. 報告及び審議	
(1) 入札・契約手続きの運用状況等の報告	
1) 入札方式別発注工事 2) 入札方式別発注業務 3) 入札方式別発注役務の提供等及び物品の製造等 4) 指名停止等の運用状況 5) 談合情報等への対応状況 6) 再度入札における一位不動状況 7) 工事種別毎の低入札価格調査制度調査対象工事の発生状況 意見・質問等なし	
(2) 抽出事案審議	
1) 木原道路赤石トンネル工事 Q 1. 調査基準価格に近い価格で応札した者が多いが、何か要因はあるのか。 Q 2. 調査基準価格未満で応札した者で、施工体制の確認に必要な追加資料を提出せず、無効となった者が多いが、提出しない理由は何か。 ○本件入札・契約は適正であると判断する。	A 1. 本工事の積算は、主に公表されている標準歩掛を使用しているほか、今年度はトンネル工事の発注が多く、他のトンネル工事の積算内訳について情報開示を求めることも出来ることなどから、予定価格・調査基準価格を類推することが十分可能である。このため、受注意欲の高い者が、調査基準価格近くの金額で応札したものと推測している。 A 2. 調査基準価格を下回ると、品質確保の観点から施工体制について、多数の追加資料の提出を求めて確認することとなる。また追加資料を提出し、ヒアリングで説明しても、施工体制点の30点をとることは難しいと判断し、資料提出に係る労力も勘案した結果、提出しない者も多いのではないかと推測される。
2) 湖陵多岐道路三部地区改良工事 特に質疑なし ○本件入札・契約は適正であると判断する。	
3) 鳥取西道路高住高架橋第2鋼上部工事 Q 1. 当工事の工事難易度は「やや難」ということだが、どのようにして難易度を決定しているのか、また判断するためのマニュアル等はあるのか。	A 1. 工事難易度は工種ごとにチェックリスト（難易度評価表）により定められており、構造物に係る条件、自然条件、施工箇所等の社会条件、他工事との調整の必要性等の項目により、総合的に判断している。

Q 2. 難易度Ⅰ及びⅡのような上位のものは、どのような工事が該当するのか。 ○本件入札・契約は適正であると判断する。	A 2. 難易度Ⅰ及びⅡに該当するような工事は、ダム の建設等、特殊な工事の場合のみである。
4) 国道 9 号相生第 1 トンネル外照明設備工事 Q 1. 応札した 5 者のうち 4 者が予定価格超過となっているが、考えられる要因はあるか。 Q 2. 総合評価項目で、企業の施工実績、配置予定技術者の施工実績をともにトンネル照明器具 200 灯以上か未満で区分しているのはなぜか。 Q 3. 工事難易度が「難」であるのはどのような判断からか。 Q 4. 当工事はトンネル内の照明をナトリウム灯から LED 灯に更新するとのことだが、更新の優先順位はどのようにつけているのか。 ○本件入札・契約は適正であると判断する。	A 1. 本工事の積算は概ね公表されている標準積算を使用しているが、一部機器費については参加業者から見積を徴収し、最低値を予定価格として採用しており、またその価格は非公表であるため、予定価格超過の者が多くなったのではないかと推測される。 A 2. 本工事で更新する照明器具が 294 灯であることから、同規模工事の設定として、200 灯としたもの。 A 3. 本工事の施工では、供用中の道路の規制、夜間作業などが必要となることから、工事 3) で説明したチェックリストに照らし、「難」と判断したもの。 A 4. 更新については維持管理費の軽減を図るため、定期点検により、ナトリウム灯の老朽化等を確認し、更新時期が到来したものから優先的に LED 灯へ切り替えを行っている。
5) 小月バイパス松屋ランプ橋上部工事 Q 1. 総合評価項目「現場担当技術者の配置計画」が無しの場合、加点 0 点とのことだが、工事として問題はないのか。 Q 2. 総合評価項目の配置予定技術者の工事成績が 0 点の者があるが、全く同種工事实績がない技術者ということか。 ○本件入札・契約は適正であると判断する。	A 1. 当項目は配置が義務づけられている主任技術者等に加えて技術者を増員配置した際に加点を行うものであり、工事に技術者の配置がないということではない。 A 2. 当項目は加点項目であり、同種工事のうち、契約期間を過去 2 年に、発注者を中国地方整備局に限定したものであり、仮に地方公共団体等での実績があっても加点されないため、0 点であっても全く同種工事の実績がないということではない。
6) 法勝寺川境第 2 樋門ゲート設備工事 Q 1. 参加業者が 1 者のみということだが、何か要因は考えられるのか。 Q 2. 入札金額が予定価格と 1 万円差となっているが、予定価格の算出方法はどのように行っているのか。	A 1. 本工事は樋門ゲート 1 門の新設工事で、予定価格も 1 千万円弱と工事規模が小さいため、参加業者が少なかったと思われる。 A 2. 予定価格の算出は標準積算が 50%、単価設定がなく特別調査を行うものが 25%、機器費について参加業者から見積を徴収したものが、25%という割合となっている。 応札金額を確認したところ、官積算と業者積算では個々の積み上げ金額にかなり相違が見られ、全体額で偶然近い金額になったものと考えている

○本件入札・契約は適正であると判断する。	。
7) 苫田ダム修繕設計外業務 Q 1. 低入札に該当し、追加資料を求めところ、提出がなされず、無効となった者があるが、資料提出を行わないのは工事と同様な理由からか。 Q 2. 参加業者は2者のみであったが、ダムに関する設計業務ということで特殊性が高いということか。 ○本件入札・契約は適正であると判断する。	A 1. 同様である。追加資料を提出しても、評価項目の「履行確実性度」に多くの加点は見込められないことから、資料提出にかかる労力等を勘案して提出を行わない者も多いと考えている。 A 2. 苫田鞍部ダムは日本では希少な表面遮水型ロックフィルダムであり、技術的な難易度が高かったこと、また発注時期、工期設定が繁忙期にかかるものであり、技術者の確保が困難であったことなどが、参加業者が少数であった要因と考えている。
8) 米子地区地質調査業務 Q 1. 業者推薦調書に記載された各業者の格付順位は何に対する格付けか。 Q 2. 当該格付順位が評価結果に影響することはあるのか。 ○本件入札・契約は適正であると判断する。	A 1. 2年に一度の有資格審査申請時に、経営状況及び履行実績等から算出された評価結果を点数化し点数が高い順に並べたもの。 A 2. 基本的には評価に影響はないが、指名競争において10者を選定するのに、10番目の者が複数いる場合に、格付順位が上位の者を優先するという取り決めはある。
9) 中国管内道路構造物診断業務 Q 1. ダウンロード31者に対し、参加業者は2者のみであるが、考えられる要因はあるか。 ○本件入札・契約は適正であると判断する	A 1. 昨年度から道路の定期的な点検・診断が義務化され、国以外の地方公共団体からの発注も多く、また、工期設定も業務実施が集中する下半期であったため、人材の確保が困難であったことなどが要因として考えられる。
10) 中国管内デジタル移動通信装置製造 Q 1. 調査基準価格を下回る低入札であったため、ヒアリングなど調査を実施したうえで、落札決定を行ったとのことだが、問題がないと判断した根拠は何か。 ○本件入札・契約は適正であると判断する。	A 1. ヒアリングによると、当該者は現在5ヵ年計画で進められている大規模な消防無線のデジタル化事業を受注しており、その生産ラインが、当契約における製造機器の生産ラインと共用でき、部品も一括購入できるため、コストを低く抑えることが可能であるとの回答であった。実際の消防無線に関する受注実績についても確認し、最終的に問題ないと判断したもの。
(3) 再苦情処理の報告 該当事案なし	

平成28年度 入札監視委員会

総 会

平成28年7月1日（金） 13：30～
広島合同庁舎4号館2階11号会議室

第1回定例会議（第一部会）

平成28年7月1日（金） 14：00～
中国地方整備局 建政部 3階会議室
抽出委員 福田委員